

申1号年末手当の団体交渉実施

3.0ヶ月の満額回答を強く要求!!

交渉の POINT

11月12日、ステーションサービス協議会は申1号「2019年度年末手当に関する申し入れ」の団体交渉を行いました。はじめに、私達から要求に関する趣旨説明を行いました。2019年度第2四半期決算は、増収・増益、営業収益は72億6,600万円で新規駅受託業務が増加することにより、昨年より8億4,900万円増加、対前年で113.2%と順調に推移しています。JESSビジョン2020による「3つの駅づくり」の実現及び技術継承や業務改善により、「安全で働きがいのある」駅職場をめざし、日々奮闘する組合員の努力と頑張りによる結果であることを強く訴えました。

会社は、輸送障害の対応等、安全第一で取り組んで頂いた組合員に感謝しています。営業収益は上期の新規受託駅箇所12駅及び昨年度の33箇所の受託拡大により増収・増益となりました。

一方費用は、社員数増加及び今年度から新たに取り入れた働きがい向上施策に伴う人件費等が増加しています。今後、JR東労組は満額回答を勝ち取るために引き続き粘り強く交渉していきます。

組合

- ・営業収益は72億6,600万円と2018年度と比較して8億4,900万円増加している。
- ・台風15号・19号の異常時対応等で奮闘している組合員の努力に報いるべきだ。
- ・新規受託箇所の計画は順調に推移していることから、3.0ヶ月支払う能力は十分にある。
- ・近年の訪日外国人旅行者が増加し現場第一線で業務している組合員が様々な部分で語学力向上に務め、ご利用されるお客さまにより良いサービス等を提供している。

会社

- ・営業収益は年度初の計画通りに進捗していないものの受託箇所の拡大により前年を上回ることが出来た。日頃から現場第一線で努力をして頂いている組合員の皆様に感謝している。
- ・各駅へのパソコン増配備等に係る費用が増加している。将来にわたって当社の事業活動を支える人材投資及びインフラ整備は必要不可欠である。下期についても業務品質向上及びコストダウンに協力をお願いしたい。
- ・年末手当は第2四半期決算の状況とこれからの費用等を含め慎重に検討して回答したい。

ステーションサービス損益計算書(抜粋)

	2018年度 第2四半期決算	2019年度 第2四半期決算
営業収益	6,417	7,266
売上総利益	617	862
営業利益	109	218
経常利益	124	226
当期準利益	67	130

(単位:百万円)

インバウンドや異常時対応などの努力を報い満額回答を!!

日頃の業績アップは、私達の努力であることは言うまでもない。今こそJR東労組の旗の下に結集し職場からの闘いで要求を実現させよう!

